

太陽電池パネルを園舎に設置 「エコロジー教育」と「省エネ」に大きく貢献

学校法人 小川学園
土気中央幼稚園さま

子どもたちに、「未来につなげるエコロジーの心」を育みたい。そんな思いから太陽光発電システムの導入を検討。既存の園舎に30kW相当のパネルを設置し、目に見える教育資材として、園児へのエコロジー教育に役立っています。



■導入企業

学校法人 小川学園
土気中央幼稚園さま



- 千葉/千葉市緑区
- 1974年3月開園、以来30年以上にわたり、周辺地域の幼児教育の中核として貢献を続け、卒園生は5,000名を超える。現在の園児数は約280名。

■導入商品

多結晶太陽光発電システム

- 2009年12月、電池容量30kWの太陽光発電システムを設置。2010年1月より稼働中。

こんなソリューションを実現しました

Before

導入前(課題)

- 1 CO₂削減や省エネなど、環境問題が大きく取り上げられる中、その重要性を、園児たちにしっかりと伝えたいと考えていました。
- 2 環境問題にいち早く着目し、園庭の芝生化などに努めていましたが、視覚的な効果が弱く、なかなか周囲に伝わりませんでした。
- 3 教育施設の場合、月々の光熱費が意外とかさむもの。その削減のためには、先生や職員の省エネ意識を喚起することも重要でした。

After

導入後(効果)

- 1 すでに太陽光発電について知っている園児もいるなど、みんな興味津々。予想以上の効果で、日常の教育にも活用しています。
- 2 園が公表する前に、保護者の間で園舎の屋根に太陽光発電を導入したことが話題になるなど、周囲に大きな反響がありました。
- 3 不在の部屋の電気をこまめに消してくれたり、エアコンの温度設定に気を配ってくれるなど、先生や職員に節電の意識が生まれました。

■インタビュー



学校法人 小川学園
土気中央幼稚園
園長 小川 治政さま

導入の背景

園児たちにエコロジーを身近に感じて欲しいと思いました。

子どもたちに自然の大切さやエコロジーについて学んで欲しくて、何か良い方法はないものかと以前から考えていました。そんな折りに、親しくしている幼稚園が太陽光発電システムを導入したという話を聞き、見学させてもらいました。話を聞いたときは見学だけのつもりだったのですが、屋根に載せられた太陽光パネルのインパクト、子どもでも発電量がすぐわかる表示装置などを見て、「これは素晴らしい」と感じました。すぐに当園でも導入を検討することになり、早速その幼稚園への設置を担当したシャープを紹介してもらいました。

選ばれた理由

実用に見合う効果への不安をスピーディで丁寧な対応で払拭できました。

見学した幼稚園は新築で、太陽光発電システム導入を前提に設計していたので40kW相当のパネルを屋根に載せていました。しかし、当園は既存の園舎に載せることになります。従って、どの程度の量のパネルを載せられるのか、正直不安でした。せっかく費用をかけて設置するので、やはり実用に見合ったものにしたいですからね。でも、園舎をチェックしたシャープの方から、「30kWは載ります。先生やりましょう」と言っていたので、安心して計画を進めることができました。こういった対応に信頼と実績を感じる事が多くありました。これも、シャープに導入をお願いした大きな理由です。



設置された液晶表示装置。同様の画面を園長室でも見る事ができる。

導入後の効果

太陽光発電＋省エネ意識の向上で、電気代が15%も減少する月も。

太陽光発電を稼働させる際、園児を集めてシステムの説明をしたのですが、「あ、太陽光知ってる!」と言う子が結構いて驚きました。また、日常でも環境教育のような形で表示装置や太陽電池パネルを見せ、先生が「今日も屋根で電気を作っているよ」という話をしています。

実質的なところでは、やはりかなりの節電になっています。お天気が良いと24kW程度の発電量になります。また、システムの導入がきっかけとなり、先生方が照明や空調を積極的に管理してくれるなど、園内の省エネ意識も高くなりました。おかげで、好天が続いた月などは電気代が15%も削減できました。これはすごいと思いますね。

今後の展望

幼児期のエコロジー教育は今後ますます重要になってきます。

最近、千葉市の幼稚園協会などに出席すると、太陽光発電の話題がひんぱんに出てきます。また、エコロジー教育は幼い頃に行う必要がありますので、幼児教育の現場として、その責任はますます大きくなっていくはずです。

それだけに、今後も積極的な取り組みを続けたいと思っています。当園には同じ千葉市緑区内に姉妹園、あすみ中央幼稚園がありますが、将来的にはこちらにもシステムの導入をすすめたいと考えています。